

パラダイムシフトの時代をどのように乗り越えるか

岩本敏男会員（株式会社NTTデータ相談役）

今、世界的にパラダイムシフトが起こっている。そのトリガーを3つ挙げると、アメリカのビジネスラウンドテーブルが2019年8月に宣言した株主資本主義からステークホルダー資本主義への見直し、COVID-19のパンデミック、そして最も大きな問題がロシアによるウクライナ侵攻である。この軍事侵攻の中で情報の収集（ドローンの有効性）、情報の伝達（インターネットの確保）、情報の真実性（偽動画やフェイクニュースの識別）の重要性が再確認され、最先端技術のパワーが明らかになってきた。この3点以外にもカーボンニュートラル、SDGsなどの課題もある。そのような中で技術開発、社会規範の変化が促されている。まさに百年に一度のパラダイムシフトの時代だ。これまでの価値観とか社会構造が劇的に変化してしまっているのだ。さらに、権威主義か民主主義かの二項対立ではないが、民主主義の在り方が改めて問われている。

今はWeb2.0と言われているが、強力なプラットフォーマーによる勝者総取りというエコシステムはサステナビリティに懸念がある。そのような課題を乗り越えた先にWeb3.0の時代が来ると思う。「DAO（分散型自立組織）」が「株式会社」に取って代わるのではないとも言われているが、メタバースやNFTを支えるブロックチェーン技術はまだ多くの課題がある。一方、レガシー化する基幹システムの刷新という課題もあり、これができないと2025年には年間12兆円の損失になるという。いわゆる「2025年の崖」問題である。

デジタル社会を実現するキーテクノロジーは、“CAMBRIC”（Cloud computing, AI, Mobility, Big Data, Robotics, IoT, Cybersecurity）ではないかと考えている。特に重要だと考えるのが「AI」であり、AIが人類の脳のパワーを超えるシンギュラリティーは2045年頃だとも言われている。ITの3大要素技術である「CPU」、「ストレージ」、「ネットワーク」が指数関数的に成長しているからである。

しかし、最先端技術には必ず光と影がある。影に怯えることはないが人類共通のルールを策定し、しっかりコントロールすることが必要になる。今、AIの倫理とガバナンスは世界中で大議論になっている。Ethical（倫理的）、Legal（法的）、Social（社会的）、Issues（問題）を意識したマネジメントが重要である。

日本はマネジメントをリードする立場にいて、国もAIのガイドラインを出している。EUはかなり厳しいガイドラインを設けて、AIを絶対に使わせない領域も考えているようだ。OECD、GPAI、ユネスコなどの国際組織もAIの利用について原則などを発表している。日米

の多くのIT企業はAIポリシーを制定しているが、これからはAIを利用する全ての企業がAIガイドラインを出さなくてはならないと思う。

今、世界は、百年に一度のパラダイムシフトの時代に入ってきている。その中でITテクノロジーが大きなインパクトを持っている。技術者をはじめ多くの関係者が光と影をしっかりとコントロールしながら、科学技術の進歩に努力していくべきだと思う。